

令和6年度 自己評価結果及び学校関係者評価

学校法人池田学園 東京服飾専門学校

2025/4/1実施

日本アパレルファッショングラント業協会 専務理事 長谷川裕司氏
日本アパレル工業技術研究会 事務局 福永或明氏
東京日暮里織維卸協同組合 理事長 山田章博氏
株式会社オルウェイズ 池田竹谷氏(本学園卒業生)
パートナー 大森正樹氏(本学園卒業生)

1.教育理念

項目	具体的方策と取組	評価
A 学校の理念に基づいた教育が行われているか	全体のカリキュラムを構築したうえで、それぞれの学生の理解度や個性、将来の目標に応じて内容を調整・最適化しながら授業を展開しています。単に知識を伝えるだけでなく、学生一人ひとりが自ら考え、実践し、成長できるように、段階的な学びと丁寧なフィードバックを重ねることで、より主体的な学びへと導いています。	5
B 学校における職業教育の特色は何か	企業との連携による実践的な授業やインターンシップを重視し、学生が実際の職場で求められる力を在学中から自然に身につけられるように教育を行っています。講義内容は、業界の最新動向や現場でのリアルな課題を反映させたものとし、アカデミックな知識の詰め込みや教室内だけで完結する学びに偏ることのないよう配慮しています。	5
C 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	社会や経済の変遷を当然のこととして柔軟に受け止め、常にその動向と教育内容との間に乖離が生じないよう留意しています。特にDXをはじめとする技術革新や価値観の変化に対しては敏感に対応し、変化を「追いかける」のではなく、「教育の中に自然に組み込む」ことを意識しています。	4.7
D 学校の理念・目的・育成・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	随時、公式ウェブサイトやSNSを通じて最新情報の発信に努めており、イベント情報、カリキュラムの更新、学生の活動実績、企業連携の取り組みなどを速やかに公開しています。こうした広報活動を通じて、教育の透明性を高めるとともに、本校の魅力や取り組みをより多くの人に知ってもらえるよう日々工夫を重ねています。	4.3
E 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	各学科では、それぞれの専門分野における最新の業界動向や技術革新、雇用ニーズを常に注視し、それに応じて教育内容・カリキュラムの見直しと更新を継続的に行ってています。企業や現場との連携、業界関係者からのフィードバック、就職先の求める人材像などを積極的に取り入れながら、学生が社会で活躍できるよう、実践的かつ柔軟な教育体制を整えています。	5
学校関係者コメント及び評価		
webなどで拝見するところ、しっかりと理念があり、それに基づいた教育をされていると思います。 時代に即した教育理念となっている。 項目Aの教育理念をどう教育につなげていくか例をあげるなど具体的な方策と取り組みが書かれていません。 項目Cも具体的に記載してほしい。全体的に非常に抽象的であるため、評価し難い。		

2.学校運営

項目	具体的方策と取組	評価
A 目的等に沿った運営方針が策定されているか	教育理念に基づいた明確な運営方針を策定し、その方針に沿って日々の教育活動を展開しています。理念と実践が一致するよう、教職員が一丸となって指導力と教育環境の向上に努めています。これにより、学生一人ひとりの成長を支える質の高い学びを実現しています。	4.3
B 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	学校全体のビジョンに基づいた長期的な方針を設定し、それを具体的な短期事業計画へと段階的に落とし込んでいます。日々の教育活動や運営においては、その計画を指針としながら着実な実践を積み重ねています。これにより、持続可能かつ柔軟な教育運営を目指しています。	4
C 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	運営組織の体制と意思決定のプロセスは明確に定められており、全職員に対して丁寧に共有されています。各部門が共通認識のもとで役割を果たし、組織としての一体感を持って運営にあたっています。これにより、円滑かつ透明性の高い学校運営が実現されています。	3.7
D 人事、給与に関する規定等は整備されているか	各種制度や運営体制は、定められた規定に基づいて適切に整備されています。規定は実務に即して見直しが行われ、実際の運用にも反映されています。これにより、透明性と公平性を保った組織運営が可能となっています。	3.3
E 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	各学科では定期的に学科会を開催し、教育内容や学生指導、運営上の課題などについて情報共有を行っています。教職員が共通認識を持ち、連携を深めることで迅速な対応と質の高い学びの提供に努めています。全ての課題に対して組織的に取り組む体制が整えられています。	4.5
F 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制は整備されているか	定期的に学外の見回り活動を行い、学生の安全と安心を見守るとともに、地域の環境にも気を配っています。地域のお祭り等の行事にも積極的に参加し、地域の方々とのつながりも大切にしています。学校と地域が共に支え合う関係づくりに努めています。	4.3

G 教育活動に関する情報公開が適切になされているか	毎年シラバスはWEB上で公開し、誰でも学びの内容を確認できるようにしています。また、授業の様子や取り組みについてもSNSを通じて発信し、学校の雰囲気や学びの魅力を広く伝えています。透明性のある情報発信を大切にしながら、広報にも力を入れています。	4.7
H 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	出席管理システムや授業アンケートなど、日々の業務にはデジタルツールを積極的に活用しています。業務の効率化と正確性の向上を図り、教職員が教育や学生支援により注力できる環境を徐々に整えているが、一部まだデジタル化されていない部分もあるため、ICTを活用したスマートな運営を目指しています。	4
学校関係者コメント及び評価		
運営方針に沿った事業計画のどこに問題があったのか、それに対応した改善計画を策定すべき。 教員間の情報共有や連携をより活発に行い、教育レベルの向上、維持につなげていく。 A～Cは具体的な方策や取り組みが記載されていない。 GについてはHPで確認出来、評価できる。 理事長を中心に職員の方が同じ理念のもとに運営されていると思います。		4.3

3.教育活動

項目	具体的な方策と取組	評価
A 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか	教育理念に基づいて各学科の教育課程の構成および実施方針を明確に定めています。 理念と一貫性のあるカリキュラム設計を行い、実社会で活かせる学びを意識した教育実践を行っています。 教職員が協力し、学生の成長につながる質の高い授業運営に努めています。	5
B 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	1年次には基礎力をしっかりと養い、学びの土台を築く教育を重視しています。2年次からは基礎の反復に加え、応用力や実践力を育て、知識を枝葉のように広げていきます。就労後に自らの力で花を咲かせられるよう、段階的かつ丁寧な教育実践に努めています。	5
C 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	各学科のカリキュラムは、基礎から応用までを段階的に学べるよう体系的に構成されています。学生が無理なく知識や技術を深めていくよう、習得の流れやレベル感にも配慮しています。実践につながる力を確実に育てるこをを目指しています。	4.3
D キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	単なる職業スキルの習得にとどまらず、5年後・10年後を見据えたキャリア教育の充実を図っています。自己理解や将来設計に関する学びを取り入れ、卒業後の人生にも活かせる力を育成しています。長期的に自分らしく働き続けるための基盤づくりを大切にしています。	4.3
E 関連分野の企業・関係施設棟や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	関連分野の企業と継続的に連携を取りながら、業界の最新動向を教育に反映させています。企業による特別講義や連携授業を積極的に取り入れ、実践的かつタイムリーな内容で授業を構成しています。常に現場とつながった学びを提供することで、即戦力となる人材育成を目指しています。	5
F 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか	産学連携授業やインターンシップ、実践講座などの機会を積極的に設け、学びを実社会と結びつけています。こうした実践的な経験を通じて、知識と技術の定着を図り、段階的かつ体系的な教育を実現しています。学生が将来に直結する力を身につけられるよう、日々の授業づくりに取り組んでいます。	4.7
G 授業評価の実施・評価体制はあるか	学期ごとにすべての学生を対象とした授業アンケートを実施し、学びの満足度や改善点を把握しています。寄せられた声には真摯に向き合い、必要な改善には迅速に対応する体制を整えています。こうした取り組みを通じて、より良い教育環境の継続的な向上を図っています。	4.7
H 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	企業連携による実践講座を通じて、学生の取り組みに対する企業からの評価や意見を受け入れています。現場の視点を反映したフィードバックを教育に活かし、より実践的で効果的な指導へとつなげています。これにより、業界ニーズに即した人材育成を目指しています。	4.7
I 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	学生の成績や成果に対する判定・評価については、あらかじめ明確な基準を定めています。その基準はシラバス等を通じて学生にも周知されており、公平で透明性の高い評価が行われています。これにより、学修成果を的確に把握し、適切なフィードバックにつなげています。	5
J 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	検定取得に向けた対策授業をカリキュラムに取り入れ、合格を見据えた学びを計画的に実施しています。試験前には放課後指導も行い、個々の理解度に応じたサポートを行っています。学生一人ひとりが自信を持って試験に臨めるよう、きめ細かな指導に努めています。	4.7
K 人材育成目標の達成に向け、授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	学科により人材育成目標も教員確保もバラバラに感じるところがあります。業界で培った知識や技術を授業に反映させることで、実践力の高い指導を目指すためにも、安定した実務経験のある教員の確保を心がけたい。	3.3
L 関連分野における業界等との連携において、すぐれた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	常勤教員には業界経験豊富な人材を多数配置し、基礎から応用まで一貫した指導を行っています。非常勤教員には現役の業界関係者を積極的に迎え、最新の知識や技術を授業に取り入れています。これにより、実践的かつ時代に即した教育環境を整えています。	4.7

M 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	教員の指導力向上と教育の質の維持・向上を目的として、定期的に研修を実施しています。教育方法や業界動向、学生支援に関する内容など、多角的なテーマで学び合う機会を設けています。教職員一人ひとりが常に成長し続ける体制を大切にしています。	4.7
N 職員の能力開発のための研修等が行われているか	業務の質向上や組織力の強化を目的に、職員を対象とした研修会を年間を通じて多数実施しています。内容は業務スキルから学生対応、コンプライアンスまで多岐にわたり、実務に直結した学びを提供しています。職員一人ひとりが成長できる環境づくりに努めています。	4.7
学校関係者コメント及び評価		
教育活動の結果、良かった点、課題等整理し、来年度の活動に繋げていただきたい。 教育理念を元にそれに沿ったカリキュラムを組み、その方向性にあった人材を生み出す活動をされていると思います。 具体例がない。 学生が就職に対する意識を早い段階で高めるようなカリキュラムの編成も必要か。		

4.学修成果

項目	具体的方策と取組	評価
A 就職率の向上が図られているか	就職に関する授業を体系的に設け、進路指導に漏れがないよう丁寧に対応しています。担任と就職担当が連携を取りながら、一人ひとりの希望や適性に応じた支援を行っています。学生が目標とする進路を実現できるよう、計画的な指導と育成に努めています。	5
B 資格取得率の向上が図られているか	検定対策は授業の中に計画的に組み込まれており、基礎から応用まで段階的に指導を行っています。試験前には希望者を対象に放課後指導も実施し、個々の理解度に応じたサポートを行っています。これにより、検定取得率の向上を着実に図っています。	4.3
C 退学率の低減が図られているか	担任を中心に、個人面談などの学生一人ひとりに対するきめ細かなケアを日常的に行っています。問題が見られる態度や行動については教職員間で情報を共有し、全員で早期対応にあたっています。こうした体制により、学生の不安や孤立を防ぎ、退学率の低減につなげています。	5
D 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	在校生だけでなく卒業生とのつながりも大切にしており、卒業後も連絡を取り合う関係が続いています。特にSNSを活用することで、卒業生の活躍や業界での評価を把握しやすくなっています。オープンキャンパスでのゲストトークに招き、業界での活躍ぶりを掘り下げています。	4.7
E 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	卒業後も学校との関わりを持ち続ける卒業生が多く、進路や仕事に関する相談にも柔軟に対応しています。現場での経験や悩みを共有してもらうことで、リアルな声を在校生の指導にも反映しています。こうしたつながりが、実践的で信頼性の高い教育に役立っています。	5

学校関係者コメント及び評価

カリキュラムから御校の理念を基とし、社会においても活躍できる人材を輩出していると思います。 卒業生の追跡調査等が行われており、よくフォローされている。 卒業生としても感じられる。 抽象的な記述が多いが、理解はできる。 クラス担任と就職担当が連携をとり、学生に素早く情報を提供できている	4.8
--	-----

5.学生支援

項目	具体的方策と取組	評価
A 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	就職担当による授業形式の進路指導に加え、担任と連携しながら個別支援も丁寧に行っています。学生一人ひとりの適性や希望に寄り添い、きめ細やかな進路サポートを実現しています。複数の視点から支える体制により、安心して将来を描ける環境づくりに努めています。	5
B 学生相談に関する体制は整備されているか	メールでのやりとりやスクールカウンセラーを配置し、学生が気軽に相談できる体制を整えています。合理的な配慮を鑑みながら、担任や就職担当とも連携しながら、定期的な面談や個別対応を通じて学生一人ひとりをきめ細かくサポートしています。こうした多面的な相談体制により、安心して学べる環境づくりに努めています。	5
C 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	iPadの貸与やパソコンの貸し出しなどを通じて、高額なデジタル機器を購入しなくても学びに支障がないよう配慮しています。また、学費の分納制度を取り入れ、経済的な不安を感じることなく、安心して学習に取り組める体制を整えています。	4.7

D 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	校内には保健室を設け、体調不良時やケガの際にすぐ対応できる環境を整えています。また、スクールカウンセラーも配置し、心の悩みや不安にも対応できる相談体制を確保しています。心身の両面から学生を支える安心のサポート体制を整えています。	4.7
E 課外活動に対する支援体制は整備されているか	学生の自主性や交流を促進するため、サークル活動を積極的に支援しています。活動に必要な環境や備品の提供、広報面でのサポートなども行い、学生同士のつながりづくりを後押ししています。学校生活をより豊かにする場として、課外活動の充実にも力を入れています。	4.7
F 学生の生活環境への支援は行われているか	担任を中心に学生との個別面談を定期的に行い、日常の悩みや問題点を早期に把握し気づいた課題は教員間で共有し、連携しながら迅速にフォローを行っています。また、必要に応じて購買では風邪薬や生理用品の支給をしています。	4.7
G 保護者と適切に連携しているか	Web出欠管理サービスを活用して連携しており、必要に応じて迅速な対応ができる体制を整えています。また、担任から保護者への連絡も適宜行っています。学校・保護者・学生が一体となって学生の成長を支えられるよう努めています。	4.7
H 卒業生への支援体制はあるか	本学園の就職専用サイトは卒業生も閲覧可能となっており、卒業後のキャリアアップにも対応しています。また、卒業生からの相談には、対面でのやりとりはもちろん、メールなど間接的な方法も活用しながら随時対応しています。	4
I 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	現在、夜間や通信課程での教育は行っていませんが、学び直しを目的とした入学者への対応は行っています。年齢や背景に関わらず安心して学べるよう、個々の状況に寄り添った指導やサポートを実施しています。多様な学びのニーズに応える体制づくりを大切にしています。	2
J 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	職業体験実習や職業ガイダンス、各種ワークショップなど、実践的な学びの機会を幅広く提供しています。業界や職種への理解を深め、自分に合った進路選択につなげられるよう支援しています。学生の興味や目標に応じた多様な取り組みを行っています。	5
学校関係者コメント及び評価		
学業に専念できるような精神的、経済的支援が整っている。 各学生の理想と現状を照らし合わせ、学生の望む方向へ就職できるよう全力を尽くしていると思う。 抽象的な記述が多いが、理解はできる。 積極的に実施していってほしい。		
4.9		

6.教育環境

項目	具体的方策と取組	評価
A 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	ミシンやアイロンといった実習機器に加え、iPadや貸出用パソコンなど、学習に必要なデジタル機器も幅広く整備しています。学生が安心して実習・課題に取り組めるよう、使用環境やサポート体制にも配慮しています。充実した設備を通じて、実践力の高い学びを支えています。	4.7
B 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	年間3,000件を超える研修・インターンシップの機会を提供し、多くの学生が実践的な経験を積んでいます。業界との連携を活かした多様な受け入れ先があり、将来に直結する学びを実現しています。さらに、海外研修も毎年実施し(希望者のみ)、担当者が社会的情勢を踏まえて国際的な視野を育む機会も大切にしています。	5
C 防災に対する体制は整備されているか	万が一の災害に備え、防災備蓄品を校内に完備し、非常時にも対応できる体制を整えています。防災会議を毎年実施し、避難行動や安全確認の習熟を図っています。安心・安全な学びの場を維持するための取り組みを継続しています。	5
学校関係者コメント及び評価		
服飾関係全般の機材はもとより、それに類する記載、設備も充実している。 教育環境は教材機器等が充実しており、良い環境にあると思う。 修繕が必要な機材などは定期的にチェック、メンテナンスをして作業がしやすい環境を維持していってほしい		
4.6		

7.学生の受け入れ・募集

項目	具体的方策と取組	評価
A 学生募集は、適正に行われているか	学生募集に関する活動は、各種ガイドラインや法令に基づき、適正かつ公正に実施されています。広報活動や入試対応においても、誤解を生まない正確な情報提供を徹底しています。高校でのガイダンス、オープンキャンパス等を通じて、志望者が安心して進路選択できる環境を整えています。	5
B 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	学校の最新情報や募集要項は、パンフレットや公式ホームページ、SNSを通じて分かりやすく発信しています。加えて、オープンキャンパスや学校見学時には実際の授業見学や個別相談も行い、理解を深める機会を設けています。 多様な手段を活用し、正確で丁寧な情報提供に努めています。	5
C 学納金は妥当なものとなっているか	本校の学費は、他校と比べても教育の内容や学びの環境をふまえて、無理のない妥当な金額に設定しています。専門的で実践的な学びをしっかりと受けられるように工夫されており、多くの方に納得していただける内容です。かけた費用以上の学びや成長を感じていただけるよう、日々努めています。	5
学校関係者コメント及び評価		
過去の実績から適切であると考えます。 ルールに従って、適正に行われている。 問題なく評価できる。 項目Cの無理のない金額や多くの方に納得していただけるというのは情緒的すぎる。何をもって妥当とするのか例示が必要。		
4.9		

8.財務

項目	具体的方策と取組	評価
A 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	少子化による多少の学生数の減少はあるが、経費削減等で補填するよう努めている。	3
B 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	前年度を元に、顧問税理士監修のもと、予算管理及び収支計画を行っている。	4
C 財務について会計監査が適正に行われているか	顧問税理士監修のもと、適正に行われている。	5
D 財務情報公開の体制整備はできているか	毎年、決算終了後の6月末頃までにはホームページに公開し、常に過去3年分の財務情報の公開を行っている。	5
学校関係者コメント及び評価		
現在まで存続していることを鑑みれば適切であると考えます。 少子化の対応等について早めに対策を考えることが肝要である。 項目Aが少し引っかかるが、それ以外は評価できる。 問題なく評価できる。		4.3

9.法令等の遵守

項目	具体的方策と取組	評価
A 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	毎年、学則の見直し、申請を行ない、適切に運営しています。	5
B 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	特定の者以外は閲覧できないようにするなど、個人情報に関しては細心の注意を払い管理している。	5
C 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	毎年、年度初めに昨年度の自己評価会議を行ない、問題点の洗い出し、次年度への改善に努めている。	5
D 自己評価結果を公開しているか	ホームページにて公開している。	5
学校関係者コメント及び評価		
法令遵守が適切に行われている。 過去も大きな過失もなく、適切であると考えます。 問題なく評価できる。 細心の注意はあるが、具体的にデータサーバーの保全、セキュリティ対策はどのように行っているのか記載が必要。		4.6

10.社会貢献・地域貢献

項目	具体的方策と取組	評価
A 学校の教室資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	近隣中学、高校の職業体験を受け入れている。	4.5
B 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	授業中心にはなるが、課外活動としてのボランティア活動は担任から各クラスに奨励している。	3.5
C 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	近隣中学、高校からの職業体験の受け入れ、ワークショップ、等の開催を毎年実施している。	4.5
学校関係者コメント及び評価		
地域と日常において、コミュニケーションがよくとれている。 具体的な記述が必要。 今後も積極的に活動していくべき。		4

11.国際交流(必要に応じて)

項目	具体的方策と取組	評価
A 留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って行っているか	留学生については、幅広く受け入れてはいるが、下記受け入れ可能な条件をクリアしている学生のみとしている。 1.出身国で、日本の高等学校以上にあたる教育課程を修了している者。 2.日本語能力検定試験2級(N2)以上の合格者。 または日本留学試験日本語科目200点以上、BJTビジネス日本語能力テスト400点以上を取得した者、または同等の日本語能力があると認めた者。	4
B 留学生の受け入れ・派遣、在籍管理棟において適切な手続き等がとられているか	出願後に本校独自の日本語試験と面談も実施しており、勉学意欲、経費支弁能力等総合的に判断し、適切な受け入れを行なっている。 2024年度は適正校として選定された。	5
C 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	入学後、留学生を集めて顔合わせと留学生担当から指導を行なっている。 また担任による個別面談も適宜行っている。	4
学校関係者コメント及び評価		
留学生に関しては、理念を理解できる、それに共鳴した学生だけを入学するようにしている。 留学生の受け入れ態勢等について、適切に行われている。 問題なく評価できる。		4.1